

日本大学  
生物資源科学部

# 校友会会報

2022年(令和4年) 第75号



生物資源科学部本館

## 《目次》

学部長挨拶……………	2	いもづる会(食品ビジネス学科)……………	14
会長挨拶……………	3	あすなる会(森林資源科学科)……………	15
令和4年度総会・懇親会……………	4	桜水会(海洋生物資源科学科)……………	16
令和3年度校友会収支決算書……………	5	工学会(生物環境工学科)……………	17
令和4年度校友会収支予算書……………	5	F T会(食品生命学科)……………	18
校友だより(F T会)……………	6	拓友会(国際地域開発学科)……………	19
校友だより(拓友会)……………	7	応用生物科学科校友会(応用生物科学科)……………	20
校友だより(応用生物科学科校友会)……………	8	くらしの生物学科校友会(くらしの生物学科)……………	21
校友だより(くらしの生物学科校友会)……………	9	支部だより(宮城県支部、山形県支部)……………	22
富嶽会(生命農学科)……………	10	支部だより(神奈川県支部)……………	23
紫友会(生命化学科)……………	11	校友会会則……………	24
角笛会(獣医学科)……………	12	校友会役員名簿、編集委員名簿……………	27
満喜葉会(動物資源科学科)……………	13	校友会からのお知らせ……………	28

## 「時代を見据えた新学部体制の スタートに向けて」

生物資源科学部長  
丸山 総一

令和3年12月14日に、生物資源科学部長に就任いたしました丸山総一と申します。校友の皆様におかれましては、平素より生物資源科学部に格別のご支援とご高配を賜り、心より感謝を申し上げます。令和4年度校友会会報第75号の発刊に当たり、一言ご挨拶申し上げます。

生物資源科学部のキャンパスでは、学部・大学院を合わせますと6,700名を超える学生が在籍し、日々勉強・研究・スポーツに励んでおります。令和4年度は、学生の学修・研究、キャンパスライフを考慮して、ほとんどの講義・実習を対面で実施しております。徹底した新型コロナウイルス感染症予防対策を取っておりますので、これまで学内ではクラスター感染の発生はありません。現在、感染の第7波が襲来しておりますが、これまで以上に学生・教職員の健康と安全に配慮しながら学部の運営を進めてまいりたいと思っております。

社会の状況に目を向けてみますと、18歳人口の減少と入学定員管理の厳格化、受験者の農学離れやニーズの移り変わり等により、特定の学科のみならず学部全体の受験者数減少の傾向が顕著になってまいりました。また、世界は急速な人口増加やそれに伴う食糧問題、地球温暖化等の環境問題、新型コロナウイルス感染

症のような新興感染症の出現など多くの解決すべき問題を抱えています。これらの諸問題を解決するためには、私たちは、「持続可能な開発目標(SDGs)」の達成に向けていち早く行動を開始するとともに、人・動物と環境・生態系の健全性を「一つの健康(One Health)」として包括的に捉え、関連する学術分野が連携・協力していく必要があります。そして、大学も社会のニーズに応えるべく、時代とともにその教育・研究内容を見直し、優秀な人材を輩出していかなければなりません。生物資源科学部は、これからの時代を見据えて、既存の学科の教育・研究内容を大きく見直し、令和5年度からバイオサイエンス学科、動物学科、海洋生物学科、森林学科、環境学科、アグリサイエンス学科、食品開発学科、食品ビジネス学科、国際共生学科、獣医保健看護学科、獣医学科の構成で新たにスタートいたします。新たな学部では、「生命」「環境」「食料」「資源」に関する体系的なカリキュラムを通じ、分子・生体レベルからフィールドに至るまでの最先端の知識や技術を学ぶことで、SDGsやOne Healthを理解し、それらに関わる諸問題の解決能力を身につけ、国際的に活躍できる「実践力」のある人材を育成してまいります。



日本大学は、昨年発生した一連の不祥事に対し、健全な管理運営体制の構築に向けた改革を推進するために学校法人日本大学寄附行為、関連諸規則、規程等の改正を行い、2022年7月1日から林真理子理事長と酒井健夫学長を中心とした新体制がスタートいたしました。生物資源科学部も新体制の元で、学生が未来の夢を実現できるよう、そして充実したキャンパスライフを送れるよう、全力でサポートしてまいります。そして、すべての卒業生が、日本大学に入学して本当に良かったと思っただけのような環境づくりをしてまいります。どうか、校友会の皆様におかれましては、母校の発展のため学外から暖かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。

## 「第75号校友会会報発刊に向けて」

生物資源科学部校友会 会長  
鳥海 弘

新型コロナウイルス感染症は、新たな変異株が出現し第7波の様相を呈しており、依然として収束が明確に見通せない事態が続いています。また国内でもサル痘の人への感染が報告され拡大が危惧されます。校友の皆様方におかれましては、これまでに経験したことのない社会情勢の中で各々の分野でご活躍のこととお喜び申し上げます。

本年7月より大学本部も執行部が一新され新体制での運営が始まったところです。本学部校友会にとりましては、本学部出身の酒井健夫先生が学長に就任された事は喜ばしい限りです。新体制発足に伴い日本大学校友会も7月8日の総会において小幡会長代行が「校友会も改革を推進していく」と明言され、新年度が始まったところです。生物資源科学部校友会の活動となりますと12分会+1準分会を束ねての活動となりますが、各分会はそれぞれ独自に充実した活動をしております。

例年7月に開催をしておりました通常総会や分会長会議等も対面での開催が出来ないままの新年度のスタートとなりました。7月16日には学部校友会幹事会を8か月ぶりに対面で開催し、予定時間を大幅に超過しての活発なご意見を頂戴いたしました。主な議題は、会長選出規程の

改正、次年度からの新学科体制での学部再編に伴う、現校友会分会の扱い等に多くの時間を費やしての議論となりました。学部からは学科統廃合再編ではなく新スタートであるとの見解が示されています。現分会をどの新学科が承継するのか、あるいは統合するのか、当事者にとっては深刻な問題ですので時間をかけて結論を導かねばなりません。

本部校友会総会の決定により本年度から還付金が減額されました。今までの60%から最終的に40%に漸減されて学部校友会に還付されます。これにより学部校友会の運営には大幅に予算を削減した運営を求められます。

現在、新型コロナウイルス感染症の影響で、本学の校友会活動も少なからず影響を受け、多くの分会で活動が停滞しているのが現状です。その中ではありますが本年も第75号校友会会報を発刊する運びとなりました。多くの校友諸兄に本誌を拝読して頂き、発展した学部の現況や各分会の活動をお届けできれば幸いに存じます。総合大学である本学の特色を生かし「学生・教職員・学部・校友会」と言う強固な「絆」で形成された校友会活動への積極的な参加をお願いし、校友会の目的である会員相互の親睦を図り、母校の発展な



らびに社会貢献をお願いする次第です。末筆となりますが、校友の皆さまにはこの社会情勢下ではあります、健康に十分に留意されご活躍されますことを祈念申し上げ巻頭の挨拶といたします。

## 令和4年度日本大学生物資源科学部校友会通常総会及び懇親会について

令和4年度の通常総会及び懇親会は、令和4年7月9日(土)に開催を予定していましたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため昨年に引き続き中止としました。これで3年連続中止となりました。

従来から通常総会では、前年度の事業実績、収支決算及び監査結果の報告並びに当年度の事業計画案及び収支予算案の最終承認を得ることとしていますが、中止しましたことから報告と最終承認を得ることができませんので、昨年、一昨年と同様に幹事会において、最終承認を得たとする承認を得ました。

これにより、令和4年度の事業計画案及び収支予算案は、令和3年度第4回幹事会での承認日である令和4年3月30日付けで最終承認を得たこととし、4月1日付けで施行しました。

令和3年度の事業実績、収支決算及び監査結果報告は、令和4年度第1回幹事会の承認日である令和4年6月24日付けで最終承認を得たこととしました。

例年懇親会の席上で行ってまいります表彰は、懇親会を中止しましたので昨年、一昨年に引き続き令和4年度につきましても、賞状と記念品をご自宅にお贈りしました。

令和4年度の被表彰者の方々は、令和3年秋の叙勲を受章され、獣医学科角笛会から推薦がありました月瀬東会員(獣医学科 元教授、日本大学名誉教授)及び同4年春の叙勲を受章され、生命化学科紫友会から推薦がありました有賀豊彦会員(生命化学科 元教授、日本大学名誉教授)の二人です。



## 令和3年度 日本大学生物資源科学部校友会 収支決算書

(自 令和3年4月1日 至 令和4年3月31日)

日本大学生物資源科学部校友会

(収入の部)

(金額単位：円)

科 目	令和3年度予算 (A)	令和3年度決算 (B)	予算と決算との比較 (C=A-B)	摘 要
1. 前年度繰越金	25,695,637	25,695,637	0	現 1,137,130円、預 24,558,507円(普 11,558,507円、定 13,000,000円)
2. 会費収入	39,840,000	40,794,000	▲ 954,000	
1) 準会員還付金収入	39,306,000	40,314,000	▲ 1,008,000	準会員 6,719名 × 6千円
2) 正会員還付金収入	534,000	480,000	54,000	正会員 160名 × 3千円
3. 寄附金収入	0	0	0	
4. 祝金等収入	1,200,000	0	1,200,000	総会・懇親会中止による
5. 雑収入	100,000	326	99,674	預金利息
当年度収入合計	41,140,000	40,794,326	345,674	
収入合計	66,835,637	66,489,963	345,674	

(支出の部)

(金額単位：円)

科 目	令和3年度予算 (A)	令和3年度決算 (B)	予算と決算との比較 (C=A-B)	摘 要
1. 分会交付金	19,260,000	19,722,000	▲ 462,000	12分会への交付金(初回還付金 39,444千円 × 1/2)
2. 経常費	11,740,000	7,047,547	4,692,453	
1) 人件費	5,000,000	4,720,000	280,000	事務局勤務者給与
2) 本部分担金	470,000	470,000	0	日本大学校友会本部に対する支部会費及び役員会費
3) 事務局運営費	1,200,000	378,137	821,863	コピー機リース料、その他事務消耗品等に係る諸経費
4) 通信費	2,000,000	1,222,851	777,149	会議資料等発送費、分会の会報発送費の一部支援
5) 会合費	700,000	86,138	613,862	各種会合に係る諸経費
6) 交際費	1,300,000	49,865	1,250,135	慶弔費等
7) 旅費交通費	1,000,000	77,260	922,740	出張旅費、運営補助費(5委員会分は除く)
8) 支払手数料	70,000	43,296	26,704	銀行振込手数料、残高証明書発行手数料
3. 事業費	12,800,000	8,786,492	4,013,508	
1) 総会費	1,700,000	102,992	1,597,008	総会・懇親会中止となるも表彰に係る諸経費
2) 広報費	2,200,000	1,633,500	566,500	校友会会報及びパンフレットの印刷製本費
3) 総務委員会運営費	20,000	0	20,000	
4) 財務委員会運営費	20,000	0	20,000	
5) 企画委員会運営費	20,000	0	20,000	
6) 広報委員会運営費	70,000	0	70,000	
7) 組織委員会運営費	50,000	0	50,000	
8) 記念事業補助費	100,000	0	100,000	
9) 準会員対応費	8,000,000	6,700,000	1,300,000	学部校友会が行う奨学金
10) スポーツ振興対応費	100,000	50,000	50,000	日本大学スポーツ振興関連諸費用
11) 箱根駅伝対応費	120,000	0	120,000	
12) 組織拡充計画費	200,000	200,000	0	都道府県支部の運営資金の一部補助等
13) 日本大学創立130周年募金	100,000	100,000	0	日本大学創立130周年記念事業募金
14) 歴史展示室開設資金	50,000	0	50,000	
15) ホームカミングデー経費	50,000	0	50,000	
4. 予備費	2,000,000	0	2,000,000	
当年度支出合計	45,800,000	35,556,039	10,243,961	
次年度繰越金	21,035,637	30,933,924	▲ 9,898,287	現 2,190,075円、預 28,743,849円(普 15,743,849円、定 13,000,000円)
支出合計	66,835,637	66,489,963	345,674	

## 令和4年度 日本大学生物資源科学部校友会 収支予算書

(自 令和4年4月1日 至 令和5年3月31日)

日本大学生物資源科学部校友会

(収入の部)

(金額単位：円)

科 目	令和4年度予算 (A)	令和3年度予算	令和3年度決算(B)	3年度決算との比較 (C=A-B)	摘 要
1. 前年度繰越金	30,933,924	25,695,637	25,695,637	5,238,287	
2. 会費収入	35,875,000	39,840,000	40,794,000	▲ 4,919,000	
1) 準会員還付金収入	35,398,000	39,306,000	40,314,000	▲ 4,916,000	35,398千円 ≒ 5ヵ年平均 38,021.5千円×伸び率 98%×調整率 95%
2) 正会員還付金収入	477,000	534,000	480,000	▲ 3,000	477千円 ≒ 5ヵ年平均 525千円×伸び率 100%×調整率 91%
3. 寄附金収入	0	0	0	0	
4. 祝金等収入	1,000,000	1,200,000	0	1,000,000	総会・懇親会等の会費及び祝金
5. 雑収入	100,000	100,000	326	99,674	預金利息、幹事会後の懇親会会費収入等
当年度収入合計	36,975,000	41,140,000	40,794,326	▲ 3,819,326	
収入合計	67,908,924	66,835,637	66,489,963	1,418,961	

(支出の部)

(金額単位：円)

科 目	令和4年度予算 (A)	令和3年度予算	令和3年度決算(B)	3年度決算との比較 (C=A-B)	摘 要
1. 分会交付金	17,345,000	19,260,000	19,722,000	▲ 2,377,000	17,345千円 ≒ (還付金 35,398千円 × 初回還付率 98%) × 1/2
2. 経常費	10,840,000	11,740,000	7,047,547	3,792,453	
1) 人件費	5,000,000	5,000,000	4,720,000	280,000	事務局勤務者給与、アルバイト賃金
2) 本部分担金	470,000	470,000	470,000	0	日本大学校友会本部に対する支部会費及び役員会費
3) 事務局運営費	1,200,000	1,200,000	378,137	821,863	コピー機リース料、その他事務消耗品等に係る諸経費
4) 通信費	1,500,000	2,000,000	1,222,851	277,149	分会の会報発送費の一部支援、関係先への資料発送費等
5) 会合費	700,000	700,000	86,138	613,862	幹事会、執行役員会、各種会合(5委員会分は除く)に係る諸経費
6) 交際費	1,100,000	1,300,000	49,865	1,050,135	分会、県支部、他学部校友会総会等に係る祝金等
7) 旅費交通費	800,000	1,000,000	77,260	722,740	出張旅費、運営補助費(5委員会分は除く)
8) 支払手数料	70,000	70,000	43,296	26,704	銀行振込手数料、残高証明書発行手数料
3. 事業費	12,300,000	12,800,000	8,786,492	3,513,508	
1) 総会費	1,500,000	1,700,000	102,992	1,397,008	総会・懇親会開催諸経費
2) 広報費	1,700,000	2,200,000	1,633,500	66,500	校友会会報の印刷、ホームページ管理費
3) 総務委員会運営費	20,000	20,000	0	20,000	委員会開催経費及び運営補助費
4) 財務委員会運営費	20,000	20,000	0	20,000	委員会開催経費及び運営補助費
5) 企画委員会運営費	20,000	20,000	0	20,000	委員会開催経費及び運営補助費
6) 広報委員会運営費	70,000	70,000	0	70,000	委員会、会報編集委員会開催会議及び運営補助費
7) 組織委員会運営費	50,000	50,000	0	50,000	委員会開催経費及び運営補助費
8) 記念事業補助費	300,000	100,000	0	300,000	分会及び県支部の記念式典開催に伴う補助
9) 準会員対応費	8,000,000	8,000,000	6,700,000	1,300,000	学部校友会が行う奨学金、準会員支援の原資
10) スポーツ振興対応費	100,000	100,000	50,000	50,000	日本大学スポーツ振興関連諸費用
11) 箱根駅伝対応費	120,000	120,000	0	120,000	箱根駅伝の応援に係る諸費用
12) 組織拡充計画費	200,000	200,000	200,000	0	都道府県支部の運営資金の一部補助等
13) 日本大学創立130周年募金	100,000	100,000	100,000	0	日本大学創立130周年記念事業募金(令和4年度までの10ヵ年)
14) 歴史展示室開設資金	50,000	50,000	0	50,000	記念展示室の開設準備費用
15) ホームカミングデー経費	50,000	50,000	0	50,000	ホームカミングデー開催準備費用
4. 予備費	2,000,000	2,000,000	0	2,000,000	(ホームカミングデー開催経費を含む)
当年度支出合計	42,485,000	45,800,000	35,556,039	6,928,961	
次年度繰越金	25,423,924	21,035,637	30,933,924	▲ 5,510,000	
支出合計	67,908,924	66,835,637	66,489,963	1,418,961	

## 校友だより

### 「食品業界の“今”を発信」

食品生命学科  
2016年度卒業 森下 紗衣  
食品化学新聞社 新聞編集部  
副編集長

私が食品生命学科に入学したのは元々、食品の開発に携わる仕事をしたいと思ったからでした。実際に、就職活動のスタート当初も食品メーカーに絞っていましたが、当時所属していた食品資源利用学研究室の成澤直規先生の勧めをきっかけに出版社に興味を持ち、現在勤める食品業界の専門誌を扱う食品化学新聞社で編集記者の仕事をしています。当社では、食品添加物・素材の専門紙「食品化学新聞」をはじめ、食品に関する科学技術情報誌「月刊フードケミカル」、

機能性・健康食品素材に関する科学情報誌「月刊 FOOD Style 21」の3つの媒体展開に加え、食品開発のヒントが得られる場となることを目的とした展示会「ifia/HFE JAPAN」を毎年5月に東京ビッグサイトで開催しています。私が所属する食品化学新聞は、食品添加物や食品に関連する業界動向を詳しく報道する国内唯一の専門紙として、食品を構成するあらゆる原料や製品の最新動向を発信しています。在学中に“食品化学”を中心とした知識を学んできた結果として、“食品化学”新聞社という非常に関連の深い業種に就けたことには縁を感じています。食品生命学科で勉強してきたことが日々の業務の中で活かせる機会は多く、また奥が深い世界ですので、今後もずっと学び続けていかなければならないとも思っています。

また、食品添加物に関する正しい

情報を発信していくことが、私たちの会社としての使命の一つにあります。食品添加物はさまざまな試験によって安全性が確認され、国で認められたものだけが使用でき、人が一生食べても問題ない量をさらに下回るように基準や規格も設定されていますが、国民の半数以上の方がそのことを認識していません。かねてより「食品添加物は身体によくないのでは」というイメージを持った方が多く、これらの消費者不安を利用したメディアによる食品添加物バッシングも多く見かけます。中立であるべきメディアという立場として、科学的知見に基づいた正しい食品の安全性の発信を後押ししていくとともに、今後も食品のおいしさを支える食品原料に関する最新の情報をお届けし、食品業界のさらなる発展に貢献していきたいです。



印刷所での新聞校正作業



5月に開催したifia HFE JAPAN

## 地球市民として 貧困問題に取り組む

国際地域開発学科  
2015年卒業 部 大輝  
国際協力機構 技術協力プロジェクト  
アタリ流域地域灌漑施設維持管理  
プロジェクト 専門家

私は幼い頃にテレビで発展途上国の貧困問題について知ったことがきっかけで、2011年4月に国際地域開発学科に入学しました。学部在籍時には学科研修を通して、フィリピンやベトナム・ミャンマーで多くのフィールドワークを経験し、実際に現地で起きている貧困問題について直接触れることで、他人事ではないと実感しました。

2015年3月の卒業後、博士前期課程・後期課程へと進学し、国際協

力分野に関する研究を行ってきました。博士後期課程在学時には JICA 青年海外協力隊事務局との大学連携制度を活用し、青年海外協力隊として2年間ウガンダに派遣されました。

ウガンダでの2年間は、大学生活を通して学んだことを基盤として、現地の研究機関やコメ農家とともに収量向上を目的に活動を行ってきました。

博士号取得後は、JICA(国際協力機構)の農業専門家としてコメ振興プロジェクトフェーズ2で勤務、そして現在は ATARI 流域灌漑施設維持管理プロジェクトにて活動をしています。ウガンダはアフリカの真珠と言われるほど緑が豊富で、農業生産において大きなポテンシャルを有しています。またコメ生産においても重要生産国として位置付けられており、今後の

アフリカの経済発展の一助になることが期待されています。

私が現在働いているアタリ地域は JICA の無償資金協力により灌漑施設が整備される計画があり、それに伴い技術協力プロジェクトとしてアタリ地域の発展や灌漑能力向上を支援しています。しかし、アタリ地域には様々なアイデンティを持った人たちがいるため様々な社会的な課題が存在します。そのような課題に対して JICA としてどのように解決できるか日々試行錯誤しながら活動を実施しています。

在学生の皆様には幅広い視点を持ち様々な課題に直面しても幅広い視点と柔軟な思考を持ち、好奇心を持って日々の学生生活を過ごしてもらいたいです。いつの日か国際協力の世界で一緒に働きましょう。



調査に訪れた国際社会研究室(ウガンダ、Atari)



コメ実験圃場の様子



インタビュー調査(農家と圃場の様子)

## 植物代謝物研究に取り組んで

応用生物科学科

平成14年3月卒業 澤井 学

国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所 薬用植物資源研究センター

植物は花の色素や香りをはじめ様々な物質を作ります。人類にとって役立つ物質を作る植物はハーブ、スパイス、薬草などとして利用されています。私は学部で生体分子学研究室に所属して以来、植物が多様な物質を作る仕組み、植物二次代謝物の生合成について研究してきました。配属当時、研究室に在籍された多くの優秀な先輩方(大学院生)は、日頃ご指導くださる大変頼もしい存在でした。また、大学院修了後も企業、大学、研究機関の研究者として植物二次代謝に関わる研究を続けており、指導教員であった綾部真一先生には折に触れてご指導

いただいております。生体分子学研究室の(故)青木俊夫先生、明石智義先生、さらには植物細胞学研究室の内山寛先生には私に関わる研究に惜しみなくご協力いただき、共著論文を発表させていただきました。卒業(修了)生に対してもご指導、ご支援くださる先生方に大変感謝しております。

現在、私は国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所薬用植物資源研究センターに勤めています。1874年発足の東京司薬場から続く当センターは、多様な薬用植物等の収集、保存、栽培、育種等に、最新の科学的知見、技術を取り入れながら取り組んでいます。これらの取り組みは、多様な物質を作る植物を材料に大学、研究機関などが行う様々な研究のための基盤整備であるとともに、それら様々な研究で得られた成果を国民の健康に役立てる、社会還元に資する

活動でもあります。

また、2019年より非常勤講師として応用生物科学科3年生選択必修科目「植物分子生物学」を分担しています。専門である植物二次代謝に関する回を担当し、自身の研究成果も講義内容として扱っています。講義ではいくつかレポート課題を出しており、学生に提出いただいたレポートには、教科書的、模範的な内容だけでなく、自由で柔軟な考えで書かれた興味深いレポートが毎年見受けられます。これは応用生物科学科には画一的でなく、多様なバックグラウンド、多彩な才能を持つ学生がいることによると考えています。そんな学生らに対し、私の講義が植物に興味を持つきっかけになれば、さらには将来の植物科学研究を担ってくれる方が生まれると期待しています。



ハッカ：清涼感をもたらすメントールを生成する。



クチナシ：サフランと同じくクロシンを生成する。  
抽出物は黄色の色素として利用されている。



ベニバナ：赤い色素のカルタミンは水に溶けにくく、花の黄色い色素を水で洗い落として紅が作られる。

## 社会人の皆さんに楽しく 有意義な学びを提供する

くらしの生物学科  
2019年卒業 岡 琴乃  
株式会社リスキル

私は、2019年にくらしの生物学科を卒業後、社会人教育の企業である、株式会社リスキルに入社しました。リスキルは「一人でも多くの人にリカレント教育を届ける」ことをコーポレートミッションとして掲げ企業研修を提供しています。在学時には、博物館や水族館のスタッフに興味があり、学芸員課程も履修しました。生物に直接関わる分野ではありませんが、大人になってからも学びなおすことで、人生の選択肢が広がっていくという、「生涯学習」のサポートができる仕事に携わっています。

私が所属するビジネス研修の部署には、2つの部門があり、3年間で両方経験することができました。1つ

は企業の人事や総務の方に研修を販売する営業部です。リスキルでは階層別研修（新入社員、管理職など）とテーマ別研修（ロジカルシンキングやコミュニケーションなど）を幅広く500種類以上取り扱っています。お客様が抱えている課題や研修実施の目的に合わせて最適な研修をご提案することが営業の仕事です。ビジネススキルに関する知識や視野を幅広く持って、多くのプログラムの中からお客様に合った提案を考えたり、受注後にはより良い研修にするためにお客様のご要望を講師に伝達したりすることに取り組んでいます。

もう1つは講師や教材についての業務をおこなう教務部です。貴重な勤務時間を研修受講に充ててくださる方々に有意義な研修を提供するためには、講師と教材がとても重要です。在学中には学生FD活動に参加したこともあり、教育内容に関わる仕事ができることにやりがいを感じています。学生FD活動としては、大学全体

のイベント「CHAmmit」に参加後、学部内で他学科のメンバーと活動をおこないました。「良い授業とは何か」、「どのようにしたら先生の独りよがりではなく学生が主体的に参加できる授業になるのか」を考え、受講中の学生の声を集めるアンケートを実施しました。大学の授業と同様に、研修でも、主体的に参加してもらうことは課題となっています。むしろ、企業研修は大学の授業よりも受けさせられている感覚になりやすく、より双方向型であることが求められます。双方向の研修にするために、個人やグループで考える時間を作ったり、講師からの問いかけを充実させるなどの工夫をしています。私も研修に同席し、受講者や担当者の目線から、研修の進め方や話し方について講師へアドバイスをすることもあります。今後も社会人の皆さんが楽しく受講し、その後の学びのきっかけになるような研修を提供できるよう頑張っていきたいです。



オフィスにて



研修で使用するテキスト(左)と研修カタログ(右)

# 富 嶽 会

生命農学科

連絡先：遺伝育種科学研究室  
0466-84-3515 事務局長 宍戸理恵子  
E-mail: shishido.rieko@nihon-u.ac.jp

## 令和4年度富嶽会総会の開催

例年5月に実施していました総会・懇親会ですが、未だ新型コロナウイルスの感染が収束しないことを受けて、令和4年度も中止となりました。総会の審議事項である、令和3年度活動報告・決算、令和4年度活動計画と予算につきましては、昨年に引き続き5月下旬に開催されたメールおよび資料郵送による第1回理事会内での書類審議をもって、総会決議に代えさせて頂きました。

## 活動経過報告

本年3月25日、130名が生命農学科を卒業して新たに富嶽会正会員の仲間入りをしました。富嶽会からの記念品として、折り畳み傘が贈られました。令和2年春から猛威を振っている新型コロナウイルスの影響により、就職活動は令和3年度も令和2年度同様にオンラインを主体としたものとなっております。平時とは異なる環境での就職活動により、4年生もかなりの時間を取られていますが、しっかりと進路先を決定してほしいものです。

本年4月には生命農学科最後となる140名の新生を迎えました。富嶽会では準会員である現役学生に対する支援を毎年行っています。学科1年生には、富嶽会のロゴマークと学科の略称であるAGBの文字がデザインされたトートバックや学科Tシャツを進呈しました。また実習着にAGBのロゴ刺繍を

入れる費用も補助しました。今年度は原則として新型コロナウイルス発生前に近い状況で実習が行われています。



トートバックと折り畳み傘

## 生命農学科の近況

学科恒例の新生歓迎イベントである鶴沼海岸での地引網は、台風の影響により実施できませんでした。また例年5月に開催されていたスポーツフェスタも新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となり、なかなか新生の交流の場を設けることができませんでした。しかしながら、講義に関しては令和4年度の前期より原則対面で開講されることになり、新生は4月の入学直後から対面での講義を受講することができております。しっかりと安全対策のもとで湘南キャンパスにも活気が戻ってきました。原則対面での講義ということもあり、今年度の新生は新型コロナウイルス発生前に近い状況で学生生活を過ごしているようです。

## 教員の退職・異動

植物医科学研究室の北宜裕教授、植物防疫分野の藤田佳克特任教授が定年のため、学科事務室の伊藤まりさん(実習助手)が任期満了に伴い退職されました。長きにわたり学生教育・学科・校友会の発展に尽力いただき、大変有り難うございました。また山本裕一助教が植物防疫分野から植物医科学研究室に所属替えとなりました。今後のご活躍を祈念いたします。



北 宜裕教授



藤田佳克特任教授



伊藤まり実習助手



山本裕一助教

## 新学科開設に伴う教員の配属

令和5年4月より生物資源科学部の学科構成が大きく変わります。本学科は農学科→植物資源科学科→生命農学科と名称変更は行われてきましたが、これまで教員構成・研究室構成が大きく変わることはありませんでした。しかしながら、令和5年4月には所属教員の異動を伴う改組が行われ、学科構成が変わります。この生物資源科学部の改組に伴い新しい学科が誕生します。学部再編に伴い生命農学科の教員も各学科に配置されることが予定されております。バイオサイエンス学科に植物医科学研究室の井村善之准教授および遺伝育種科学研究室の奈島賢児専任講師、動物学科に応用昆虫科学研究室の畠山吉則准教授、環境学科に緑地環境科学研究室の大澤啓志教授、アグリサイエンス学科に作物科学研究室の磯部勝孝教授、肥後昌男専任講師、花の科学研究室の窪田聡教授、水田大輝専任講師、園芸科学研究室の立石亮教授、上吉原祐亮専任講師、遺伝育種科学研究室の宍戸理恵子准教授、農業生産技術研究室の百瀬博文専任講師、東未来助教、植物医科学研究室の山本裕一助教がそれぞれ配属を予定しております。学科再編に伴い生命農学科の教員もそれぞれ新たな道を進んでいくこととなります。

## 富嶽会事務局より

大幅な学科再編を受けて富嶽会も他の学科と連携しながら、理事会を中心に会の在り方を検討していくこととなります。

富嶽会のホームページ(<https://hp.brs.nihon-u.ac.jp/~fugakukai/>)に、令和4年度 富嶽会 第1回理事会の資料を掲載いたしましたので、どうぞご覧ください。

本年より事務局長に宍戸理恵子准教授、庶務理事に大澤啓志教授、庶務に奈島賢児専任講師が就任いたしました。今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

(畠山吉則)

# 紫友会

生命化学科

連絡先：発酵化学研究室

0466-84-3945 事務局長 荻原 淳

E-mail: ogihara.jun@nihon-u.ac.jp

## 令和4年度 紫友会

### 【令和4年度理事会について】

令和2年度および3年度はコロナ禍の影響により理事会の対面での通常開催が困難となり、紙面開催、議事の承認はgoogle form および郵送にて頂きました。皆様のご理解とご協力を賜りましたこと感謝申し上げます。本年度も昨年度同様、理事会は紙面開催とさせていただきます。コロナ禍が収束し、皆様に安心してお目にかかれるようになることを祈念して、微力ではありますが運営をすすめていただきたいと思います。引き続き皆様のご理解とご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。総会の開催は来年度検討しております。この際に謝恩会など旧交を温める機会の無かった令和元年度以降の卒業生の皆様をはじめとした同窓生の交流会開催のきっかけとなれるよう企画したいと考えております。

### 活動経過報告

令和3年度の活動は、近年同様、準会員である在学生への後援活動行事が中止となったため、限られたものとなりました。通常開催されている行事についてご案内致します。[新入生歓迎会共催]、[フレッシュマンセミナー：ロールモデル講演会共催]、[紫友会奨学金授与]、[紫友会特別賞授与]、[就活支援セミナー共催]、[新入生ネームプレート贈呈]、[紫友会杯争奪ソフトボール大会共催]、[研究室配属説明会共催]、その他謝恩会や研究室単位での同窓会開催補助等を実施しております。本年度から対面講義が中心となっておりますので、ゆっくりとではありますが、コロナ禍前の学生支援体制に回復していくと考えております。皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

### 【令和4年度 第29回紫友会奨学生決定】

理事会の同日に奨学生選考委員会より厳正に選考された以下9名の奨学生が決定しました。

2 年次；猪股 優馬、岡田 尚斗、  
荒木 胡春  
3 年次；岩佐 悠加、森田 華、  
松本 乃乃花  
4 年次；小島 美来、岸 涼介、  
今関 愛里咲

### 【訃報】

江刺琢磨氏が令和3年12月12日95歳の天寿を全うされ穏やかに旅立たれました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。紫友会は昭和29年10月に農学科農産製造専攻の卒業生の同窓会組織として誕生し、その3年半後の昭和33年4月に、同専攻が母体となって新設された農芸化学科を包含して、それら合同の同窓会となって現在に至っております。同氏は紫友会創設時から事業活動に参画され献身的にご尽力頂きました。同氏に対し、深甚なる敬意と謝意を表す次第です。

## 生命化学科の近況

### 【在校生】

令和3年度は昨年と同様にすべての学内行事が中止となったため、在校生に対する後援活動を例年のように実施することができませんでした。卒業式は令和4年3月25日に日本武道館および学部大講堂にて令和3年度学位伝達式が開催され、生命化学科卒業生121名が社会へ羽ばたきました。3密を避けるため指定された講義室に分散しての静かな伝達式となりました。同年4月から生命化学科1年次学生143名(男子93名、女子50名)を迎え入れ、現在、当学科には計539名(男子317名、女子222名)の学生が在籍しております。

### 【学科教員動向】

令和4年春の叙勲におきまして、有賀豊彦名誉教授が瑞宝小綬賞を受章されました。有賀先生の長年にわたる教育研究活動が評価されたものです。今後益々のご活躍を祈念致します。令和4年3月31日付けにて和田彩香さま(実習助手)がご退職されました。和田さまは本学食品生命学科卒業後、実習助手として着任し5年間、学科の発展のために献身していただきました。今後のご健康とご多幸をお祈りいたします。令和4年4月1日付けで平野貴子先生(生物化学研究室)、伊藤紘子先生(植

物栄養生理学研究室)が准教授へ、山口勇将先生(食品化学研究室)が専任講師へ、増澤依先生(栄養生理化学研究室)が助教へ昇格されました。先生方の益々のご活躍を期待しております。これにより、学科全体では教員16名(教授8名、准教授5名、専任講師1名、助教1名)、特任教授1名、実習助手1名、合計18名の布陣で教育研究活動にあっております。



高橋会長と紫友会奨学生の皆さん

## 紫友会事務局より

### 【事務局からのお知らせ】

来年度学部新学科体制に改組されることが決定しました。このため生命化学科は発展的に来年度募集を停止することになります。生命化学科の各研究室は維持され教員は、バイオサイエンス(12名)、食品開発(2名)、アグリサイエンス(1名)、環境(1名)の各学科に分かれての所属となります。今後の紫友会の活動をどのような体制にて実施していくべきか、事務局並びに理事会にて検討頂く予定です。引き続き準会員の学生の皆様への支援活動並びに校友の皆様への支援活動など適切に実施していきたいと考えております。今後とも皆様のご支援を御願い申し上げます。紫友会会員の皆様のご近況や同期会等のご様子を事務局まで御知らせ下さい。紫友会のホームページは<http://www.nihon-u-shiyukai.jp>からご覧いただけます。また、インターネット上で「紫友会」と検索してください。同ウェブ上で連絡先等変更の手続きができますのでご利用ください。

(荻原 淳)

# 角 笛 会

獣医学科

連絡先：獣医生化学研究室  
0466-84-3634 事務局長 岡林 堅  
E-mail: okabayashi.ken@nihon-u.ac.jp

**令和4年度 角笛会総会・  
日本大学獣医学会  
合同開催および角笛会主催  
動物病院就職説明会の中止**

令和4年度角笛会総会ならびに日本大学獣医学会は、新型コロナウイルス感染症の収束がみられないことから、角笛会総会については紙上開催とし、獣医学会は開催を中止することといたしました。

また、同日に開催予定であった獣医学科学生（準会員）のための動物病院就職説明会についても、同様に中止することといたしました。

## 令和4年度 角笛会総会（紙上開催）

令和4年8月5日に、紙上にて令和4年度角笛会総会を開催し、8月18日までご意見をいただきました。令和3年度事業活動および会計収支報告、令和4年度事業活動案および予算案等が審議され、承認されました。

角笛会の発展に貢献した角笛会功労者として、平野孝昭氏（熊本県）に賞状と記念品が授与されました。

## 第19回 日本大学医療系同窓・ 校友学術講演会

第19回日本大学医療系同窓・校友学術講演会は、新型コロナウイルス感染症の収束がみられないことから9月の開催は見送られましたが、今後の開催に向けて準備を進めていくことになりました。

## 月瀬東名誉教授 「瑞宝小綬章」受章

本学名誉教授である月瀬東先生は、令和3年11月3日に「瑞宝小綬章」の叙勲受章をされました。昭和43年4月に本学農獣医学部獣医学科に奉職されて以来、平成23年11月に

定年退職されるまで、43年7ヶ月の長きにわたり、獣医解剖学（獣医組織学・発生学を含む）の教育・研究に係る職責を担われ、それらを通じての社会活動に真摯に、かつ精力的に取り組まれました。その活動によって生まれた業績や成果は自身の足跡に留まらず国内外における獣医学、解剖学および生物資源学の発展に極めて大きく寄与しました。

## 獣医学科の近況

### 【獣医師国家試験】

第73回獣医師国家試験が令和4年2月15日、2月16日にTOC有明4階にて行われました。日本大学獣医学科から125名が受験し、115名が合格しました。合格率は92.0%（全国平均88.6%）でした。

### 【卒業生および新入生】

本年3月25日に127名（男子53名、女子74名）が本学科を卒業しましたが、通常の卒業式は中止となり、学科別に卒業証書等を授与するのみの簡略的なものとなりました。

本年4月には130名（男子53名、女子77名）の新入生を迎え、鶴沼海岸にて新入生歓迎会が行われました。

## 【学科人事】

本年3月をもって金山喜一教授（獣医生理学研究室）、加納墨准教授（獣医皮膚病学研究室）が退職されました。本年4月に橋本統教授（獣医毒性学研究室）、阪本裕美専任講師（獣医消化器病学研究室）、谷浩由輝助教（獣医放射線学研究室）、中野彩さん（獣医学科事務室）が採用されました。また、成田貴則先生（分子生物学研究室）、近藤広孝先生（獣医病理学研究室）、佐藤真伍先生（獣医公衆衛生学研究室）が准教授に昇格されました。（大野真美子）



橋本 統 教授



谷 浩由輝 助教



阪本 裕美 専任講師



新入生歓迎会：挨拶をする鳥海弘会長と角笛会寄贈の獣医学科オリジナルTシャツを着用する新入生

# 満喜葉会

動物資源科学科

連絡先：動物組織機能学研究室

0466-84-3702(直通) 事務局長 園田 豊

E-mail: sonoda.yutaka@nihon-u.ac.jp

## 令和4年度満喜葉会 —活動経過報告—

### 【役員協議会の開催】

毎年開催しています「満喜葉会役員会」は、コロナ禍のため一昨年度(令和2年度)より中止となっております。また、令和3年度の満喜葉会役員会も開催できなかったため、令和2年度の事業報告、決算報告、監査報告および次年度(令和3年度)の事業計画案、予算案などの審議は、令和2年度分も含めて令和4年度の役員会で予定しております。

今年度(令和4年度)も新型コロナウイルスの感染拡大の状況によっては、これまでと同様に役員会の開催を断念しなければなりません。しかし、満喜葉会会長と5名の副会長による役員協議会は、昨年度より引き続き令和4年度も会議を重ね、従来の役員会と総会の開催に向けての検討を行っております。また、事務局員との合同会議も行われました。これまでの協議の内容は以下のとおりです。

#### 議事概略：

- ①役員、幹事および会員の動向
- ②名簿確認作業の実施
- ③会報発行と発送先の確認
- ④ホームページの改善計画
- ⑤役員会、会計監査および総会の開催
- ⑥満喜葉会将来計画
- ⑦その他

## 学科の状況

### 【スポーツフェスタ・新入生歓迎会】

新型コロナウイルス感染拡大の影響により、一昨年度同様、本年度のスポーツフェスタも中止となりました。また、その後の新入生歓迎会も開催することができませんでした。

### 【卒業生】

令和4年3月25日に137名が動物資源科学科を卒業し、新たに満喜葉会正会員(令和3年度卒75期)の仲間入りをしました。

令和3年度の卒業生の進路状況は、就職84%、進学9%、その他7%です。就職希望者に対する就職率は、98%です。

満喜葉会から記念品として印鑑付きボールペンが贈られました。

### 【新入生・在校生】

令和4年4月には148名の新入生を迎え、学科在籍学生数は、1年次153名、2年次132名、3年次129名、4年次145名、合計で559名(4月4日現在)となっています。

一昨年度からのスポーツフェスタの中止で新入生への学科Tシャツの進呈が出来ませんでした。今年度は学科Tシャツを贈ることができました。さらに、2年生と3年生にも進呈できました。Tシャツのデザインは新入生によって学科名と満喜葉会名を取り入れて作成してもらいました。Tシャツの色は、1年生がライトグリーン、2年生がインディゴブルー、3年生がブラックと各学年で異なります。



Tシャツの絵柄(前面左胸元(上)、背面(下))

また、令和4年度4月のガイダンスの時に、3年生と4年生の成績優秀者の4名に「満喜葉会賞」を授与しました。

### 【学科人事】

令和4年4月1日付けで、新たに教授として細谷忠嗣先生が着任されました。また、浅野早苗先生(飼養学研究室)が専任講師に、明主光先生(野生動物学研究室)が助教に昇格されました。先生方の益々のご活躍を期待しております。



細谷 忠嗣 教授

令和4年度の動物資源科学科は、以下の19名の体制で教育研究活動を行っております。

#### 飼養学

梶川 博 教授、浅野早苗 専任講師

#### 動物組織機能学

山室 裕 教授、園田 豊 専任講師、  
相澤 修 専任講師

#### 動物生殖学

大西 彰 教授、三角浩司 准教授

#### 草地学

佐伯真魚 教授

#### 野生動物学

岩佐真宏 教授、明主 光 助教

#### ミルク科学

川井 泰 教授、増田哲也 特任教授

#### 伴侶動物学

福澤めぐみ 准教授

#### 学科教授室

細谷忠嗣 教授

#### 学科特任教授室

村田浩一 特任教授

#### 畜産マーケティング

小泉聖一 特任教授

#### 動物育種学

長嶺慶隆 特任教授

#### 学科事務室

深谷有紀 実習助手、  
小宮優子 実習助手

(園田 豊)

# いもづる会

食品ビジネス学科

連絡先：学科事務室

0466-84-3420 事務局長 高橋 巖

E-mail: imozurukai@gmail.com

## 役員会・幹事会のハイブリッド開催

2022年度、新型コロナは収束しないながら徐々に落ち着きを見せつつあり、大学は前後期を通じて対面形式の授業となっており、キャンパスは賑わいが戻りつつあります。

こうした中、いもづる会では、昨年度より対面の受け入れを増やした Zoom 利用のハイブリッド形式（本館 11 階・食品ビジネス学科ミーティングルーム）で、役員会・幹事会（6/11 土）を開催しました。2021 年度の活動・会計について報告がなされたのち、2022 年度の活動計画案・予算案などが審議され、すべての議事が満場一致で了承されました。現職教員の参加にも感謝したいと思います。活動計画等については、ホームページ（「いもづる会」で検索）をご覧ください。



ハイブリッド形式の役員会・幹事会

## 産学ネットワークの連携模索・強化へ

食品ビジネス学科は、2023 年に創設 80 周年を迎えるにあたり、目玉科目の一つである「食品ビジネス特別講義」（3 年次集中）をリニューアル開講（9/14～17）しました。学科卒業生の起業家たちの参画・協力を得ながら、学生たちが 18 のチームに分かれて、DTC（Direct to Consumer）型のビジネスプランを設計する試みです。活発なグループワークやプレゼンテーションが、学生自身の大いなる主体性発揮の機会となっています。「食で人を幸せにする」ことを目指した起業家精神の発露は、日本大学の「自主創造の精神」そのものです。

学科では、「新・中長期基本計画」に基づき、校友会とも連携しつつ、産学ネット

ワーク構築に向けてのあり方を模索・強化しているところです。すでに「食品企業経営学」などの講義・ゼミでは、経営戦略事例や組織マネジメント、成熟化時代のマーケティング戦略等に関する特別授業でゲストが登場し、学生の理解定着に結びついています。今後も、内容をグレードアップしてまいります。



学生のグループディスカッション風景

## 学科公式キャラクター誕生

幹事会・役員会では、学科主任である宮部和幸先生から、学科公式キャラクター「フドッグ」による学科プロモーション戦略について説明がありました。キャラクターは、一般を含め広く公募したところ、107 点の応募があり、学科教員・外部有識者及び学科学生の投票審査に基づく審査で決定しました。頭の F は食で世の中に貢献できる人材として芽吹く若葉を表現、手に持つフライパンが「食」、鉛筆が「経済学」を示し、学科のミッションである食のプロデューサーの育成を示唆しています。性格は元気で好奇心旺盛、よく動き、運動神経も抜群。犬だけに鼻が利きます。夏のオープンキャンパスでは、着ぐるみとともに現役学生が大活躍しました。



フドッグを囲む学科FD学生

## 食品ビジネス学科の近況

### 【卒業生・在校生】

2021 年度に 136 名の学生が卒業し（正会員総数 10,331 名）、2022 年度は 150 名の新生を迎えました。学科単位の学位授与式及び新生ガイダンスは大講堂で行われました。当日の様子は、「食ビチャンネ

ル（YouTube）」でご覧いただけます（チャンネル登録で応援の輪が広がっています）。

### 【コロナ禍での教育体制】

講義や実習は、原則対面形式で行えるようになりましたが、フィールドリサーチは、コロナ禍での学部方針から、関東圏など近県で実施しました。これからも、安全面を考慮しつつ柔軟に対応していきます。



近県中心のフィールドリサーチ

### 【学部組織再編と学科の動向】

生物資源科学部は、2023 年度から学部組織の再編を実施します。こうした中、本学科は、これまでの教員体制や教育研究を基本的に維持しつつ、更にバージョンアップした新カリキュラムにより、教育研究を充実させることとなりました。さらに飛躍を目指す本学科に、ぜひご注目ください。

### 【教職員の動き】

学科事務室では、2021 年 12 月松浦知恵子さんが着任されました。2022 年 3 月末日を以て実習助手埜和泉さんの退職（任期満了）に伴い、5 月からは武田真由美さんが着任されました。

統計資料室（食の専門図書館）司書職では、2021 年 11 月矢形康子さんの退職に伴い、12 月より吉村真由子さんが着任されました。

最後に残念なお知らせです。名誉教授・島津正先生（学科校友会名誉会員）が、4 月にご逝去されました（享年 98）。謹んでお悔やみ申し上げます。

情報発信は、Eメール・FB等で行っております。登録をお願いいたします。

(1) いもづる会ホームページ

<http://hp.brs.nihon-u.ac.jp/~imozuru/>「いもづる会」で検索

(2) いもづる会 Facebook（いもづる会 校友会）

<https://www.facebook.com/imozurukai/> Facebook で友達申請をしてください。



（佐藤 奨平）

# あすなる会

森林資源科学科

連絡先：森林環境保全学研究室  
0466-84-3675 小坂 泉  
E-mail: asunaronichidai@gmail.com

## あすなる会活動報告

### 【役員会】

令和3年度理事会は、9月4日に書面で開催し、令和3年度事業報告、決算報告、監査報告並びに次年度の事業計画案及び予算案が承認されました。また、同月7日に臨時の理事会を開催し、宮島吉夫氏から東郷聖史氏への会長交代が承認されました。会長交代に伴い、副会長には渡部隆之氏と新たに市川雅也氏が就任しました。また、事務局長には、宮野則彦先生の後任として新たに小坂 泉先生が就任し、会計を杉浦克明先生、広報を毛利嘉一先生と園原が担当することとなりました。

あすなる会からの学科・学生への支援として、学会発表に挑戦する学生の補助や、1年生の必修科目・森林資源科学実習での樹木テストの補助を頂きました。また、昨年度に第30回みどりの文化賞を受賞した田中惣次氏への祝電を送りました。

## 学科の近況

### 【卒業生・新入生】

本年3月25日には、111名(男子85名、女子26名)が本学科を卒業しました。昨年度と同様、学部全体の卒業式は行わず、学科別に卒業証書等を授与するのみの簡略的なものとなりました。研究室において成績優秀かつ研究室に貢献した学生への「あすなる会会長賞」は例年通り授与し、9名に表彰状と記念品が贈られました。

4月には、139名(男子114名、女子25名)の新入生を迎えました。あすなる会からご支援を頂き、新入生に入学記念品を贈りました。今年度も、感染症対策のためスポーツフェスタ(学部運動会)等のイベントは中

止となりましたが、新入生ガイダンスや対面方式での授業や実験実習が行われました。キャンパスにも元気の学生の姿が多く見られ、活気が戻ってきました。

1年生前期必修の森林資源科学実習では、少人数のグループに分けて、教員が個別にフィールド実習や実験を行うメニューと全員を2班に分けてキャンパス内で行う樹木テストが実施されました。樹木の解説を聞きながら樹木図鑑で樹種の同定を行った後、全ての樹種を覚え、最後に番号札の付いた枝葉を見て樹種を答えるテストに挑みました。



1年生の森林資源科学実習の一コマ



キャンパスでの樹木テストの様子

学科の就職支援としては、林野庁や都道府県を目指す学生向けの学科主催の公務員講座と、3年生向けの就職支援イベント「卒業生による就職情報交換会」をオンデマンド方式で実施しました。近年、15～20名が公務員に合格し活躍しています。民間企業への就職を目指す学生も含め、引き続き学科で支援して参ります。

### 【学科の人事】

本年3月、2名の先生が退職されました。森林生態学研究室の丸山 温

先生は本学科で10年間勤務され、さらに2017～2021年度まで学科主任を務められました。教育・研究活動を通じて多くの学生や大学院生を指導して頂きました。また、木材工学研究室の宮野則彦先生は1989年(平成元年)に本学科に着任してから33年間の長きにわたり、学生への教育・研究活動に尽力されました。昨年度まであすなる会事務局長を務められ、あすなる会にも大きく貢献して頂きました。また、学科事務室・実験助手の橋詰 茜さんが退職となりました。事務だけでなく、実習や学科行事等で多くのサポートをして頂きました。ありがとうございました。

本年4月より、森林生態学研究室に新たに教授として安部哲人先生が着任されました。安部先生は保全生態学がご専門で、森林動態や繁殖戦略、生物多様性保全等に関する研究に取り組まれています。また、学科事務室には新たに木村至央さんをお迎えし、内海裕美さんとお二人での新体制となりました。

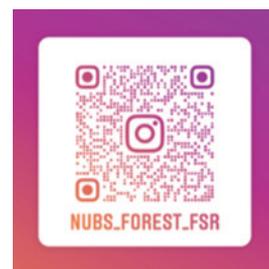
## あすなる会ホームページ

あすなる会ホームページが下記のアドレスに開設されています。会長の挨拶、役員人事、会則、近況の活動報告等が掲載されています。

<http://hp.brs.nihon-u.ac.jp/~asunaro/index.html>

学科ホームページ(下記アドレス)、学科公式のInstagramやFacebookでは最新の学科の様子がご覧になれます。

<https://hp.brs.nihon-u.ac.jp/~forestry/>



InstagramのQRコード

(園原 和夏)

# 桜水会

海洋生物資源科学科

連絡先：海洋環境学研究室

0466-84-3685 事務局長 廣海 十朗

E-mail: hiromijuro@nihon-u.ac.jp

## 2022年度桜水会総会の開催 (懇親会は中止)

令和4年6月25日(土) 14:00より湘南キャンパス10号館において「令和4年度桜水会総会」が、3年ぶりに開催されました。総会では、令和2および3年度の事業報告、決算報告、監査報告、令和4年度の事業計画案、予算案などが審議され、すべて承認されました。懇親会は昨今の状況を鑑みて、中止となりました。

## 学科・準会員への支援

一昨年度からコロナ禍が続いていますが、本年度前期の授業は、全て対面で4月11日から8月1日までの期間で開講することになりました。前期開講科目である「海洋生物資源科学概論」(1年次必修科目)の中で、将来就いてみたい職業を見出すという職業研究の一環として、社会で活躍する本学科卒業生の体験談など講演していただきました。6月3日に三浦愛氏(58期:CLARIMARE代表)と池口弘毅氏(50期:マルハニチロ株式会社)、7月29日に大岡晋氏(67期:宮城県気仙沼向洋高等学校)と渡邊明日香氏(67期:茨城県立海洋高等学校)の計4名の卒業生にお願いしました。また、「特別講義」(3年次選択科目)では、本学科「海洋生物資源応用コース」(JABEE対応コース)の外部評価委員に委嘱されている方々から、長谷川勝治氏(20期:元焼津水産高校校長)、市橋理氏(37期:アジア航測株式会社、技術士)、宮下一明氏(38期:株式会社東京久栄、技術士)、中瀬浩太氏(31期:五洋建設株式会社、技術士)および田角由香氏(日本ミクニヤ株式会社 技術士)の5名に、技術者教育の一環として講演していただきました。

このほか、1年次の学科オリエンテーションである地引網実習や必修科目であ

る「海洋基礎実習I」の実施に向けて熱中症対策などに関わる支援(本年度は3年ぶりに下田臨海実験所にて、乗船実習、磯採集、磯釣り・釣果物の観察などを実施)、1年次用の学科Tシャツの作製をすでに実施しました。今後、在学生の学会参加費等の補助や卒論コンペ(塚本賞)の支援、卒業生への記念品の贈呈等を実施する予定です。



地引網実習中の一コマ  
グループ内での自己紹介の様子

## 学科の近況

### 【新入生・在学生】

本年4月に147名(男子102名、女子45名)の新入生を迎え、現在581名(男子397名、女子174名)の学部生が在籍しています。また、4専攻に跨る大学院には、博士前期課程22名(男子15名、女子7名)、および博士後期課程2名(男子1名、女子1名)が在籍しています。

本年度の座学では、講義室定員の6割までの上限を設け、十分に間隔を開けて対面授業を実施しています。コロナ感染予防に十分に配慮してのことです。1年次生の海洋基礎実習Iでは2年ぶりに下田臨海実験所を使用しての実施でした。2年次生の学生実験では前期4研究室分(化学、利用、計測、環境)は全て対面で実施しました。夏季休暇～後期の4研究室分(生理、病理、生態、増殖)も対面で実施予定です。また、3年次生は5月初旬に研究室への配属が決まり、海洋生物資源科学演習Iおよび実習Iを対面で受講しています。さらに、4年次生の卒業研究活動や大学院生は例年通り研究室やフィールドでの研究活動を行えています。

学科のホームページでは昨年度より中学生・高校生を対象に、SNSを通じた

学科の研究活動・学生生活など情報発信しております。本年度はフォトコンテストを主催し、学部生や大学院生の撮った写真を投稿しています。重ねてのお願いとなりますが、InstagramとツイッターのQRコードを載せますので、フォロー等お願い致します。



Instagram  
QRコード



twitterの  
QRコード

### 【学科教職員の異動】

海洋生物資源科学科では、各研究室に2名以上の教員が所属する8研究室体制で研究・教育活動に取り組んでいます。学科事務室は、濱田奈々実習助手と宮治久美実習助手の2名体制で運営しています。また、4月に福島英登准教授が教授に、牧口祐也専任講師、澤山英太郎専任講師が准教授に昇格されました。

## 桜水会事務局より

桜水会会員の皆様のご近況や同期会等の活動の様子を事務局までお知らせください。桜水会のホームページ(HP)は、海洋生物資源科学科HP([http://hp.brs.nihon-u.ac.jp/~kaiyo/wp/o-sui\\_description/](http://hp.brs.nihon-u.ac.jp/~kaiyo/wp/o-sui_description/))内に併設されております。同HP上で連絡先等の変更手続きができますのでご利用ください。桜水会は、一昨年度末(2021年3月)に、会報の完全オンライン化に移行しました。皆様への連絡方法は、従来のハガキでの送付からメールの送付に移行しています。メールアドレスの登録・変更は、桜水会HPでお願い致します。

(福島 英登)

# 工学会

## 生物環境工学科

連絡先：生物生産システム工学研究室  
0466-84-3691 梅田 大樹  
E-mail：umeda.hiroki@nihon-u.ac.jp

### 会員の動向

正会員数は、令和3年度卒業生115名を加え、令和4年3月現在で8057名となりました。現役学生である準会員は、1年生128名（男105・女23）、2年生116名（男97・女19）、3年生143名（男119・女24）、4年生118名（男100・女18）で、合計505名（男421・女84）となっています。したがって、現役学生の男女比はおおよそ5:1となっています。

### 学科の活動

生物環境工学科は毎年1年生を対象に、学科について学ぶことを目的としたフレッシュマンセミナーを開講しています。今年度は工学会補助にて有識者を2名お招きし、学科で学んだことが社会でどのように活かされるかについてのご講演をして頂きました。

### 教員人事

#### 【昇格・着任】

- ・今年度より、地球環境・リモートセンシング研究室の宮坂加理先生が助教に昇格されました。
- ・今年度より、小川彩さんが学科事務室に配属されました。

#### 【退職】

- ・今年3月末日をもって、糸長浩司特任教授が5年間の任期を満了されました。
- ・今年3月末日をもって、中嶋綾香実習助手が5年間の任期を満了されました。

今後ますますのご活躍を祈念いたします。

本年度の研究室の配置と所属教員（教授5名、准教授5名、専任講師3名、助教1名、特任教授3名、実習助手1名、事務員1名）は以下となります。

#### 水資源環境工学研究室

（長坂貞郎教授、山崎高洋専任講師）

#### 地域環境保全学研究室

（笹田勝寛准教授、對馬孝治准教授）

#### 地球環境・資源リモートセンシング研究室(串田圭司教授、宮坂加理助教)

#### 動物生態環境学研究室

（三谷奈保専任講師）

#### 建築・地域共生デザイン研究室

（栗原伸治教授、藤沢直樹専任講師）

#### 環境土木施設工学研究室

（齊藤丈士教授、川本治特任教授）

#### 生物生産システム工学研究室

（川越義則准教授、梅田大樹准教授、宮本眞吾特任教授）

#### 生物生産流通施設学研究室

（都甲洙教授、佐瀬勘紀特任教授）

#### バイオメカトロニクス研究室

（内ヶ崎万蔵准教授）

#### 学科事務室

（池田真有花実習助手、小川彩事務員）



令和3年度学位記伝達式の一コマ



令和3年度卒業記念品  
（写真左が工学会からの卒業記念品）

### 学科への支援

工学会では、準会員である現役学生に向けた支援を行っています。令和3年度の卒業生には卒業記念品（印鑑付きボールペン）の贈呈、及び卒業生表彰（工学会長賞）を行いました。工

学会長賞は高橋朋弥さん、境野拓実さん、小谷野太一さん、袴田敏光さん、早川直希さんの5名となり、学位記授与式にて受賞者の公表が行われました。令和4年度の2年生には測量学実習に使用する実習服の一部費用と飛沫感染防止メガネを支援しました。3～4年生に対しては工学会HP上に就職支援ページを開設し、OB・OGが在職する企業・団体を紹介し、学生の就職支援に一役買っています。

### 事務局より

日本大学生物資源科学部は令和5年度4月より9学科を新設、既存2学科のカリキュラム改訂を行う形での新学科体制となります。詳細は学部HPをご確認いただければと存じますが、新学科体制への移行に伴い1996年度に開講された生物環境工学科は来年度改組となります。現時点では改組に伴う校友会の対応方針は未定となっておりますが、今後学部より対応方針が示された際は、工学会の皆様方へ何らかの手段にてお知らせいたします。皆様のご理解とご協力をよろしくお願い致します。

郵送費の低減を図るために、会報はHP上での閲覧を可能とし、郵送を希望する方以外には発送しないことと致します。会員の皆様には下に示します工学会ホームページ等での情報発信に努めてまいります。

下記E-mailアドレスにメールいただければ定期的な情報も配信いたしますので、ご活用いただきますようお願い申し上げます。

E-mail：info@bae-kougakukai.org  
（工学会公式）

FAX：0466-84-3836

（地域環境保全学研究室 笹田直通）



工学会ホームページ

<http://www.bae-kougakukai.org>

お問い合わせページ

<http://www.bae-kougakukai.org/inquiry2/postmail.html>

（梅田 大樹）

# F T 会

食品生命学科

連絡先：食品資源利用学研究室  
0466-84-3980 成澤 直規  
E-mail：narisawa.naoki@nihon-u.ac.jp

## F T会活動報告

### 【F T会理事会および総会の開催】

例年4月に本学湘南キャンパスにおいて開催されているF T会 理事会について、本年度は4月9日(土)に開催されました。これにより令和4年度事業計画案および会計収支予算案等に関して承認されました。例年6月に開催される総会についてはコロナ禍のため中止となっております。

### 【準会員(在学生)への活動】

F T会では準会員の活動援助として、4年生へ卒業記念品の贈呈(アルバム写真代の補助)を行いました。4年生の学業優秀者に贈られるF T会長賞には中島有紗さん(食品衛生学研究室)が選出されました(158単位、GPA第2位)。本年度の卒業式はコロナ感染症対策のため簡略化した形式で実施されました。全学生に対して資格試験受験料の補助も例年通り実施しました。例年1年次学生を対象に実施されるフレッシュマンセミナー、学部スポーツフェスタに対して補助を行っていましたが、本年度はコロナ禍によりいずれも開催が中止となっております。



加藤有紗さん F T会長賞受賞の様子  
(令和4年3月25日 卒業式)

## 学科の近況

### 【在学生と卒業生】

令和元年度はF T会 57期生 136名の学生が卒業し、社会に巣立っていきました。令和4年度 新入生 155名を迎え、2年生 143名、3年生 145名、4年生 138名と合わせて581名が在籍しております。

過去2年間はコロナ禍のため多くの科目がオンデマンド授業でありましたが、令和4年度からは通常の対面授業により実施しております。卒業研究では、新型コロナウイルス感染症対策を実施したうえで、通常通りの活動を行っております。

令和4年8月6日7日に開催されたオープンキャンパスにおいて、当学科の卒業生 川崎幸正さん(F T会 49期、公益社団法人日本缶詰びん詰レトルト食品協会)と馬庭愛加さん(F T会 55期、横浜検疫所 輸入食品・検疫検査センター)にご講演をいただきました。



新入生ガイダンスの様子(令和4年4月2日)



川崎幸正さん 講演の様子  
(令和4年8月6日 オープンキャンパス)

### 【学科人事】

大槻崇先生(食品分析学研究室)、大畑素子先生(食品栄養学研究室)が准教授に昇格されました。小林りか先生(食品資源利用学研究室)が一身上の都合により退職されました。実習助手 井上梢さんが任期満了に伴

い退職されました。井上さんはF T会の運営にご尽力いただきました。この場をお借りして御礼申し上げます。今後ますますのご活躍をお祈り申し上げます。

令和元年度 食品生命学科は以下の構成となっております。

#### ○ 12号館 5階

食品衛生学研究室  
(鈴木ちせ教授、河原井武人専任講師、京井大輔助教)

食品創成科学研究室  
(阿部申准教授)

食品資源利用学研究室  
(鳥居恭好准教授)

食品生命工学研究室  
(陶慧准教授)

食品生命学科特任教授室  
(山形一雄特任教授、荻原博和特任教授)

学科事務室

#### ○ 12号館 6階

食品資源利用学研究室  
(竹永章生教授、成澤直規准教授)

食品生命機能学研究室  
(細野朗教授、津田真人専任講師)

食品栄養学研究室  
(長田和実教授、大畑素子准教授)

食品分析学研究室  
(松藤寛教授、大槻崇准教授)

## 事務局より

F T会のホームページ(<http://ftkai.net/>)では総会のご連絡など各種イベント情報を公開しています。また、F T会では同窓会・同期会の開催に際し、一部補助を行っております。ホームページからお問い合わせください。

(成澤 直規)

# 拓友会

国際地域開発学科

連絡先：熱帯資源作物研究室  
0466-84-3468 事務局長 倉内 伸幸  
E-mail: kurauchi.nobuyuki@nihon-u.ac.jp

## 拓友会会長交代の報告

2021年9月15日に、2003年から拓友会第4代会長を務められてきた内田俊太郎氏が辞任されました。内田氏は2008年から第5代学部校友会会長に就任し、さらに2014年には日本大学理事に就任しました。内田氏は拓友会の伝統を継承しつつ、学科との連携を強化し多くの功績をあげてきました。長年の功績に多大なる感謝を申し上げます。新たに昭和62年卒北原幸典氏が会長に選出されました。伝統ある拓友会をさらなる発展に導いてくれることを期待します。



内田俊太郎  
拓友会第4代会長



北原幸典  
拓友会新会長

## 活躍する卒業生

2000年卒業の奥田文子氏が、令和3年度文部科学大臣優秀教職員賞を受賞されました。奥田文子氏は埼玉県立の農業高校で20年以上教員を務めており、真摯で画期的な指導方法が評価され受賞となりました。現在は埼玉県立杉戸農業高校で教鞭をとっています。なお、同高校の校長は、拓友で北原新会長と同期の原口賢氏が務めています。

## 拓友の帰国講演会： アフリカで学んだ稲作を日本でも！

2004年卒業の松本俊輔君は、在学中海外研究部に所属し、海外で農業技術を広げる夢を抱いていました。千葉大学大学院園芸学専攻科で修士課程を修了後、2006-2009年に青年海外協力隊に参加し、西アフリカのブルキナファソで食用作物隊員として現地在来作物の栽培改良に貢献しました。さらに、2009-2010年に短期青年海外協力隊に参加し、東アフリカのウガンダで、同じ拓友の大先輩で当時JICA稲作専門家であった坪井達史氏(昭和50年卒)に師事し稲作技術を学びました。その経験を活かしてJICA稲作プロジェクト専門家に採用され2010-2013年にウガンダ、2014-2016年にカメルーン、2019-2022年にザンビアでネリカの技術普及活動を続けてきました。また、その間2011-2016年に千葉大学社会人博士課程に進学し、博士号(農学)を取得しています。

2016-2019年の一時期は民間企業の新素材事業部に勤務し、アジア、ヨーロッパなどで活動していま



ウガンダの農業試験場で普及員らに講習している松本俊輔さん

ました。長年の海外在住の立場から、次は日本の農業をなんとかしなければいけないと考え、ザンビアから帰国後は埼玉県で遊休農地を活用しながら稲作を始めました。海外で誇れる日本の農業技術を再構築するため、松本君の夢は第2ステージへと進んでいます。

## 令和3年度拓友賞授与

令和3年度の拓友賞は、遠藤友香さんと鈴木大介さんが国際地域開発学科より推薦され、令和4年3月25日に実施された卒業証書伝達式の席上、表彰状ならびに副賞が授与されました。



遠藤友香さん(左)、倉内伸幸教授(中)、鈴木大介さん(右)

## 卒業者の進路状況について

令和3年度卒業者の進路状況は、就職109名、就職活動中8名、進学6名、その他2名となり、就職希望者(117名)に対する就職率は93.2%となりました。

## 青年海外協力隊派遣状況

新型コロナウイルスが世界中に蔓延した影響を受けて派遣が中断していた青年海外協力隊の派遣が徐々に再開されています。JOCV一本学部連携協定の派遣が再開され、2年間待機中であった辻愛友さんがようやくウガンダに派遣されました。

## 令和3年度 TOEIC 受検

拓友会では520点以上のスコア保有学生を対象に、TOEICの受検補助を行っております。令和3年度の実績は、受検者数9名、受検回数19回、うち最高得点820点(関口峻也さん・3年)となっております。

## 令和3年度春季研修先：国際社会ゼミ

国際社会ゼミは、三浦市にある伊東農園にて春キャベツの収穫と箱詰め体験をしました。また、全国的にも有名な三浦大根も収穫でき、



三浦市伊東農園での春キャベツ収穫体験の様子(国際社会ゼミ)

お土産としていただくことができました。校友会からのご支援は、昼食時の飲み物代やデザート代として活用させていただきました。ありがとうございました。

※各研究室への配属が決定した後のスタートアップとして2~3月に春季ゼミ研修が行われており、拓友会はこれを支援しています(表1)。

ゼミ名	研修先・研修目的
比較文化	新江ノ島水族館・江の島神社 福西地域の海洋資源と文化の関係について知見を深めるとともに、博物館の社会的役割についても学習する。地域の歴史的・文化的遺産の見学を通じ、社会・経済・長生の関係について理解する。
国際協力	市ヶ谷JICA地球ひろば 国際協力に対する理解を深め、卒業論文研究に活用するため
経営・流通	豊洲市場・フォレストアドベンチャー 横浜港のぶらや物流施設の見学を通じて物流システムを学ぶための。企業研修用アクティビティを通じて協働性を高めるため
地域開発	川崎市市民家園・岡本太郎美術館 日本の経済成長以前の住居がどのようなものであったか、生活の様式がどのようなものであったのかを見学する。
国際社会	三浦市伊東農園・三浦海の学校 SDGsの観点から、農業、漁業に関わる地産地消と環境に資する地域振興のあり方について、実習と観察を通して考える機会をもつ。

表1：令和3年度に実施した春季ゼミ研修先一覧

## 在学生の近況

令和4年7月現在、  
1年生141名(男子102名・女子39名)、  
2年生134名(男子95名・女子39名)、  
3年生139名(男子95名・女子44名)、  
4年生134名(男子94名・女子40名)の合計551名(男子385名・女子166名)が在籍しています。

## 本年度の研究室配置と所属教員

農業経済研究室 菊地 香 准教授  
国際経済研究室 石田正美 教授  
国際環境経済研究室 松本礼史 教授  
国際経営・流通研究室 李 裕敬 専任講師  
コミュニケーション・言語研究室 麻生久美子 専任講師  
比較文化研究室 園江 満 専任講師  
国際環境保全学研究室 ロイキンシュック 教授 佐々木綾子 専任講師  
熱帯資源作物研究室 倉内伸幸 教授  
加藤 太 准教授 佐々木大 専任講師  
国際社会研究室 山下哲平 准教授  
国際協力研究室 飛田 哲 教授  
福田聖子 専任講師

学科事務室

野口麻生 実習助手 長澤真由美 実習助手  
以上、16名(教授5名、准教授3名、専任講師6名、実習助手2名)で運営しております。

## 退職

半澤和夫先生が退職されました。長年に亘る学科へのご尽力、本当にありがとうございました。  
(山下 哲平)

## 応用生物科学科校友会

応用生物科学科

連絡先：生体分子学研究室  
0466-84-3353 事務局長 明石 智義  
E-mail：akashi.tomoyoshi@nihon-u.ac.jp

### 学科の近況

応用生物科学科の在籍学生数は534名、学年別では1年生148名、2年生128名、3年生122名、4年生136名となっています。昨年度は114名の学生が卒業しました。

コロナ禍の中で、就職活動状況は激変し、オンラインでの企業説明会や面接が当たり前となり、最終面接のみ対面で行ったという話を学生からよく聞きました。このような状況の中でも学生はうまく対応し、就職率は例年より多少下がったものの93%で、72名の学生が民間企業・公務員等に就職しました。また大学院への進学者は23名でした。卒業生のこれからのご活躍を期待します。

生物資源科学部の学科体制の再編のため、現在の1年生が応用生物科学科の最後の入学生となります。応用生物科学科は、在籍生がすべて卒業するまで存続します。来年度から加野浩一郎教授、沖嘉尚助教、高橋恭子教授、中西祐輔専任講師は動物学科に、苫名充准教授は海洋生物学科に、それ以外の教員はバイオサイエンス学科に所属することになります。昭和63年4月に学科が設立されて以来、これまでに4,000人以上の卒業生を送り出してきました。研究室の名前や場所の変更はない予定で、これまでどおり4号館の2階と3階、生命科



令和4年度の新入生ガイダンス



令和3年度のオープンキャンパス

学研究所で研究活動を行うことになります。

本年度は対面による授業や学生実験が基本で、一部オンデマンドを併用することになりました。また定期試験は実施せず、課題やレポートなどで成績評価を行っています。コロナ前までは学生実験はグループで行うことが多かったのですが、現在は1人ずつ実験を行う形式になってきました。卒業研究においては、各研究室でコロナウイルスの感染予防対策を実施した上で、研究活動を行っています。

### 学科への支援事業

これまで学科校友会では、準会員へ向けて新入生歓迎会、スポーツフェスタなどの支援を行ってきました。しかし昨年も新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、新入生歓迎会などのイベントは軒並み中止になりました。今年度は卒業生に記念品としてUSBメモリを贈呈しました。コロナ禍の影響の中、準会員の学生の皆様へ



令和3年度の学位授与・伝達式

どのような支援ができるのか、なかなか見通すことができません。事務局では今後検討し、適切な支援活動を行いたいと考えています。



学位授与・伝達式での優等賞の授与

### 学科教職員の動き

実習助手として学科事務、学生実習にご尽力いただいた市川真衣さんが退職しました。新たに実習助手として比留川明美さんが着任されました。研究室体制や各教員の紹介等はホームページをご覧ください。



市川真衣さん

### 事務局より

事務局では会員の皆様からのご意見、ご要望、ご提案をお待ち致しています。また住所の変更、改姓、問い合わせ等ございましたらご一報下さいますようお願い致します。

(明石 智義)

## くらしの生物学科校友会

### くらしの生物学科

連絡先：くらしの園芸研究室  
0466-84-3743 事務局長 新町 文絵  
E-mail : brs.kurashi.ko-u@nihon-u.ac.jp

### くらしの生物学科の近況

くらしの生物学科 (BDL: Department of Bioscience in Daily Life) では、3月で特任教授の島田先生が御定年になりました(写真1)。島田先生のこれまでの教育・研究へのご尽力に感謝を申し上げるとともに、今後の益々のご健勝とご多幸をお祈りいたします。本年度は、くらしの微生物

光澤 浩 教授(学科主任)

相澤朋子 専任講師

くらしのバイオ

炭山大輔 専任講師

安齋 寛 特任教授

食と健康

山下正道 准教授

近藤春美 准教授

住まいと環境

小谷幸司 教授

小島仁志 助教

動物のいるくらし

恒川直樹 教授

金澤朋子 助教

くらしの園芸

新町文絵 教授

水野真二 専任講師

渡邊慶一 特任教授

学科事務室

高橋 唯 実習助手

の14名で運営しています。

なお本年7月1日現在で4年生76名、3年生83名、2年生77名、1年生87名の計323名の準会員が在籍しています。



島田先生を囲んで(写真1)

学科の活動として、3年次の必修科目「ボランティア活動」は新型コロナウイルス感染症の影響により一部の活動先でイベントが中止になるなど、予定通りの活動が出来なかったところもありますが、無事に実地活動を終了することができました。

また2月中旬には第4回の学科卒業研究発表会がオンデマンド形式で開催されました。4年生だけでなく、研究室に所属している3年生および希望する1、2年生も参加し、77件の研究発表の全てに10件以上、全体では1000件を超えるコメントが付き、オンデマンド形式ではありますが活発な質疑応答が行われました。

3月25日の卒業式は、今年もコロナ禍の影響で学科別の実施となりました。学科主任の光澤先生から一人一人に学位記が渡され(写真2)、3期生



学位記授与の様子(写真2)

77名が卒業し、新たに校友となりました。卒業後の進路は63名が就職、このうち3名が公務員となりました。また2名が本学の大学院へ進学しましたが、満開の桜のもと記念撮影をする姿があちこちにみられ、少しずつ以前の様子を戻しつつあります。

授業も令和4年度からは原則として対面式で行われております。長引くコロナ禍で発熱や濃厚接触者などが公欠になるため、なかなか全員が揃うこ

とが難しい中、6月のフレッシュマンセミナーに1年生全員が出席した日がありましたので、1年担任の提案で集合写真を撮りました(写真3)。新入生学外研修もスポーツフェスタもできない中、貴重な集合写真です。



1年生の集合写真(写真3)

### くらしの生物学科 校友会の活動報告

令和3年度の校友会総会は前年に引き続き、コロナ禍のため総会資料を郵送し、書面開催、議決はWeb回答で行いました。令和4年度の総会の開催方法は、感染の状況を鑑みながら検討致します。

令和3年度卒業生への校友会からの卒業記念品として、卒業アルバムを作成し、卒業生全員に贈呈、学科に1冊を寄贈しました。

また新型コロナウイルス感染症第6波のため、令和4年度もスポーツフェスタが中止となりましたが、昨年同様に校友会の準会員支援として1年生に学科Tシャツを購入配布しました。Tシャツデザインは、例年通りフレッシュマンセミナーのグループワークでデザインを考え、その活用方法と合わせてプレゼンしてもらい、1年生の投票で選ばれたものです。色もデザインもとてもかわいい学科Tシャツができました(写真4)。



Tシャツのデザイン(写真4)

### くらしの生物学科 校友会事務局より

くらしの生物学科は、現在ホームページ(<http://hp.brs.nihon-u.ac.jp/~kurashi/index.html>)およびFacebookやインスタグラムなどで情報を発信しています。御連絡は事務局長までお願い致します。

(山下 正道)

# 支部だより

## 令和3年度宮城県支部の近況

連絡先 〒981-3212 仙台市泉区長命ヶ丘3-30-14  
 支部長 鎌田 雅敬 事務局長 早坂 睦雄  
 TEL.022-378-6592 FAX.022-378-6592  
 携帯電話：080-5579-5456  
 E-mail: mutsuo-hayasaka.1506@jcom.zaq.ne.jp

本会はR4年度で19周年を迎えました。

■R3年度の全ての行事はコロナ禍で中止になり、総会も繰り越しました。R4年度も終息には程遠く、第7波に入り感染者も増加しており、引き続き総会及び行事を中止することに致しました。

■宮城県のR3年度のコロナ対策：  
 4/5まん延防止等重点措置宣言→  
 8/20まん延防止宣言→8/27緊急事態宣言→9/12緊急事態宣言→9/13まん延防止等宣言→10/1リバウンド防止の徹底→11/1業種別ガイドラインの遵守→11/25外出・移動の制限→1/1感染拡大時の無料検査の実施→1/14県民への行動規制要請→2/1緊急特別要請→3/22再拡大防止要請

■R4年秋以降終息後の事業計画：  
 R5年1月校友会支部新年名刺交換会出席



復興折り鶴の大型飾り

## ■ローカルトピックス

### ①仙台七夕祭開催

杜の都の夏を彩る仙台七夕は、R2の中止、R3の規模縮小を経て、R4は従来規模で開催されました。

### ②復興折り鶴の大型飾り

東日本大震災からの復興を願って、仙台市内の小中学校と特別支援学校184校の児童生徒が制作した8万5千羽の折り鶴飾り。「復興への祈りが天に届くように」と雲の白と空の青の2色に統一されています。

## ■会員の状況（R4年現在37名）

※卒業生・富嶽会2名・紫友会1名・角笛会2名・満喜葉会5名・いもずる会5名・あすなる会4名・桜水会4名・工学会6名・FT会4名・拓友会3名・湘南校友会1名・賛助会員：提携校東北高等学校

（文責者 早坂睦雄）



仙台七夕祭開催

## 山形県支部の近況

連絡先 〒990-2433 山形市鳥居ヶ丘4-55  
 日本大学山形高等学校 小嶋 佑治  
 TEL.023-641-6631 FAX.023-641-6634  
 E-mail: kozimayujij@nihon-u.ac.jp

■山形県支部設立20周年を迎える今年度もコロナ禍で各行事を中止をせざるを得ない状況でありました。各学部校友会の支部総会も軒並み中止、宮城県支部との仙山交流会も中止となり、通常通りの活動ができないこの状況が当たり前にならないよう、これからの明るい未来に期待し活動していきたいと思っております。

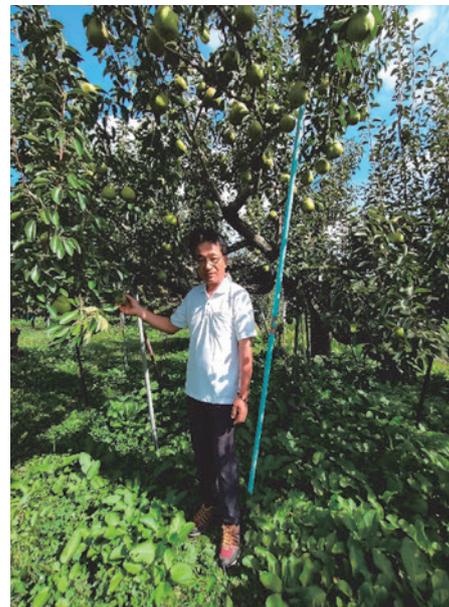
## ■生物環境工学科（農業工学科）

### 昭和59年卒 大滝 雅之

卒業後、生まれ育った県中央部・果樹王国宣言の東根市にて落葉果樹を栽培しております。

周囲の先達の方々や仲間にも果物づくりの難しさや、楽しさ等、多くの教えを受けながらあっという間に40年近く経過し、今年還暦を迎えました。

当地では果樹栽培が早くから行われてきた事もあり、今ではさほど珍しくない『農家による直販』も以前から広く行われてきました。我家でも古くから、労力を多く要する直販優位な販売体制を行っていましたが、昨今の新型コロナウイルスによるパート・従業員等の急な欠勤（家族が濃厚接触者による等）や、数年前から抱いて



ラ・フランスの前で

いた、生製品の価値は農家の自分が設定するのではなく、取引先からプロの視点で判断してもらおうのが好ましいとの強い思い



りんごの花

もあり、これまでのお客様方に説明・了承を得ながら、時代の波に反するのを承知の上、本年のサクランボから直販業務を廃止いたしました。

落葉果樹は、一年一作の各品目です。還暦を過ぎてあと何年＝何回まともにつくれるかは知り得ませんが、販売体系を大幅に簡素化したことで以前に比べ、本来の栽培自体に身体も思考も多くの時間を掛ける事ができるようになりました。

今後は、剪定を根幹とした、美味しい果物のづくり手として、前向きにゆっくりと歳を重ねていきたいと思っています。



サクランボの花



ふじ りんご



サクランボ

## 神奈川県支部の近況

連絡先  
〒252-0880 神奈川県藤沢市亀井野 1866  
日本大学生物資源科学部 食品生命学科  
食品資源利用学研究室 事務局長 鳥居 恭好  
E-mail : tori.yasuyoshi@nihon-u.ac.jp

「広報 ふじさわ」8月25日号 No.1734 に、『新型コロナワクチン4回目接種のお知らせ』がある。ワクチン接種は個別に加え、集団が行われる。感染拡大のため、7月9日(土)に予定されていた生物資源科学部交友会の通常総会・懇親会が5月早々に中止となった。感染症の収束を期待していたが、7月に当支部の懇親会も中止の判断をせざるを得なかった。

支部の至近の活動は、蕎麦の種蒔きである。8月20日(土)に行われた。今年は畝の幅を90cmから70cmに狭くして30%程度の増産を図った。化成肥料888を10m当たり約360g線状に蒔き、そこに種を植えた。約100坪に1350g程の種を蒔いた。蕎麦の場合、事前に堆肥はまかなくても良いそうである。蕎麦は、11月に収穫し、乾燥、脱穀の後、海老名の精米所で製粉の予定である。



ジャガイモの手入れ ここが蕎麦畑に



トラクターによる耕耘

今年は特に、いろいろな方にお世話になった。そのため人とのつながりの大切さを感じた。

・石臼 本支部のメンバーの知り合いから、石臼をいただいてより細か

な粉にすることもできるようになった。細かさによって、十割、二八、三七と打ち分けられる。

・堆肥 今年から学部農場管理の堆肥センターが細菌防除のため利用できなくなった。しかし、石川堆肥生産組合を頼ることができた。これは、学部卒業の酪農家の関係者である。

・前の中古耕耘機 旧耕耘機が故障のときにJAさがみの職員が迅速に対応してくれた。本支部に准組合員がいたおかげで費用も安くなった。

・トラックの立ち往生 18号耕作地で地面が緩んでいてトラックが動けないときに隣の玉葱加工場の社長がフォークリフトで牽引してくれた。地面が緩んだところにトラックで入ってはいけない。

・新しい中古耕耘機 本支部のメンバーの知り合いから耕耘機を購入したが、わざわざ栃木からメンテナンスのためにきてくれた。エンジンに関しては、詳しいメンバーから折に触れてアドバイスをもらっている。

・除草 本支部のメンバーの知り合いがトラクターで18号耕作地を耕耘してくれた。人手不足で除草が間に合わないときに、彼の誕生祝いにと耕耘してくれた。おかげで蕎麦の種蒔きに間に合った。

・新しい中古耕耘機 本支部のメンバーの知り合いから耕耘機を購入したが、わざわざ栃木からメンテナンスのためにきてくれた。エンジンに関しては、詳しいメンバーから折に触れてアドバイスをもらっている。



蕎麦の発芽年末の新蕎麦へ

新型コロナ禍でも継続して活動が行えることに関係者・協力者に深く感謝したい。(支部長 稗貫 峻)



播種機に蕎麦の種をセット

## 日本大学生物資源科学部校友会会則

### 第1章 総則

(名称)

第1条 本会は、日本大学生物資源科学部校友会と称する。

(所在地)

第2条 本会の事務局は、神奈川県藤沢市亀井野1866日本大学生物資源科学部に置く。

(目的)

第3条 本会は、日本大学校友会の生物資源科学部部会として、会員相互の親睦を図り、日本大学の興隆発展に寄与することを目的とする。

(事業)

第4条 本会は、第3条の目的を達成するために次の事業を行う。

- (1) 会員相互の交流
- (2) 会報の発行
- (3) 準会員への支援
- (4) その他本会の目的を達成するために必要な事業

(分会)

第5条 本会は、分会をもって構成する。  
2 分会とは、第8条に定める会員が学科毎に構成する校友会組織をいう。

(準分会)

第6条 学部あるいは学科の統廃合等により分会ではなくなった校友会組織を準分会という。

(支部)

第7条 本会は、支部を置くことができる。  
2 支部に関する規程は、別に定める。

### 第2章 会員

(会員資格)

第8条 本会は、次の各号に掲げる者をもって会員とする。

- (1) 正会員
  - ア 東京獣医学校、東京高等獣医学校、東京獣医畜産専門学校及び東京獣医畜産大学の卒業生
  - イ 日本大学法文学部専門部拓殖科の卒業生
  - ウ 日本大学農学部専門部農業経済科の卒業生
  - エ 日本大学農学部予科の卒業生
  - オ 日本大学農学部農学科、農業経済学科、畜産学科、林学科及び水産学科の卒業生
  - カ 日本大学農獣医学部農学科、農芸化学科、獣

医学科、畜産学科、農業経済学科、林学科、水産学科、農芸化学科、食品製造工学科、拓殖学科及び応用生物科学科の卒業生

- キ 日本大学農獣医学部食品工学科の卒業生
- ク 日本大学生物資源科学部植物資源科学科、農芸化学科、獣医学科、動物資源科学科、食品経済学科、森林資源科学科、海洋生物資源科学科、生物環境工学科、食品科学工学科、国際地域開発学科及び応用生物科学科の卒業生
- ケ 日本大学短期大学部農業科、生産教育研究所及び生活環境科の卒業生
- コ 日本大学短期大学部農学科及び生活環境科学科の卒業生
- サ 日本大学短期大学部生物資源学科の卒業生
- シ 日本大学大学院農学研究科、獣医学研究科及び生物資源科学研究科の修了生
- ス 日本大学生物資源科学部生命化学科及び食品生命学科の卒業生
- セ 日本大学生物資源科学部食品ビジネス学科の卒業生
- ソ 日本大学生物資源科学部生命農学科及びくらしの生物学科の卒業生

(2) 特別会員

- ア 日本大学生物資源科学部の教職員
- イ 本会に功績があった者及び正会員3名以上から推薦があり幹事会が承認した者

(3) 準会員

- ア 日本大学生物資源科学部の在學生
- イ 日本大学大学院生物資源科学研究科及び獣医学研究科の在學生

(4) 推薦会員

- ア 上記第2号のアの特別会員であった者で、正会員3名以上から推薦があり幹事会が承認した者
- イ 上記第3号に掲げる準会員であった者で、正会員3名以上から推薦があり幹事会が承認した者

### 第3章 役員

(役員構成)

第9条 本会に次の役員を置く。

- (1) 会長
- (2) 副会長
- (3) 幹事長
- (4) 幹事
- (5) 監査役

- 2 校友会役員は、日本大学校友会本部の正会員の中から選出する。

(役員を選任等)

第10条 幹事は各分会毎に正会員の中から3名選出し、幹事会あるいは総会において承認を得る。

なお、幹事会において承認を得た場合は、その結果を総会に報告する。

- 2 会長1名、副会長若干名は、幹事の中から選出する。その選出方法は、別に定める。
- 3 幹事長は、正会員の中から会長が任命し幹事会に報告する。
- 4 監査役は3名とし、総会において正会員の中から選出する。
- 5 幹事長と監査役及び幹事と監査役は、相互に兼ねることができない。

(役員職務)

第11条 会長は、本会を代表して会務を統括する。

- 2 副会長は、会長を補佐し会長事故あるときは会長の職務を代行する。
  - 3 幹事長は、会長の命を受けて会務を遂行し会議において会務を報告する。
- よって、総会及び幹事会を構成する役員にはなれないこととする。

- 4 幹事は、幹事会を構成し会則及び総会の決議に基づき、本会の運営について審議する。
- 5 監査役は、本会の経理状況を監査し、その結果を総会に報告する。

また、業務の執行状況については、監査役会の議を経て総会に報告する。

(役員任期)

第12条 役員任期は3年とし、再任を妨げない。ただし、満80歳をもって定年とする。

- 2 任期期間中に交代した役員任期は、前任者の残任期間とする。
- 3 役員は、任期満了後も後任者が就任するまでの期間、その任務を行うものとする。

(役員報酬)

第13条 役員は無報酬とする。

- 2 本会の活動に必要な諸費用は支給する。
- 3 諸費用については、別に定める。

## 第4章 名誉会長・顧問・相談役

(名誉会長)

第14条 本会に名誉会長を置くことができる。

- 2 名誉会長は、学部長とする。

(顧問・相談役の選任及び職務)

第15条 本会に顧問・相談役を置くことができる。任

期は3年とする。

- 2 顧問・相談役は会長が指名する。
- 3 顧問・相談役は本会の重要な事項について、会長の諮問に答える。

## 第5章 会議

(会議の種類及び議長)

第16条 会議の種類は、総会、幹事会、分会長会及び執行役員会とする。

- 2 会議は、会長が招集する。
- 3 総会の議長は、出席の正会員の中からその都度選出する。
- 4 幹事会、分会長会及び執行役員会の議長は、会長がこれに当る。

(総会)

第17条 総会は年1回通常総会を開き、必要に応じて臨時総会を開くことができる。

- 2 総会は、この会則で別に定めるもののほか、本会の運営に関する重要な事項を審議決定する。
- 3 総会の招集は、会議の日時、場所、議題等を記載した会報等により会員全員に通知しなければならない。

(幹事会)

第18条 幹事会は全ての幹事をもって構成し、総会に付すべき事項、その他本会会務の運営に必要な事項を審議する。

- 2 幹事会は、委任状を含めた構成員の3分の2以上の出席をもって成立する。
- 3 委任状出席者の議決は、予め通知された議案について書面をもって行う。
- 4 幹事会の招集に当っては、期日の2週間前までに会議の議案書を幹事に通知しなければならない。
- 5 幹事の3分の1以上の要請があったときは、会長は幹事会を開かねばならない。

(分会長会)

第19条 分会長会は全分会長をもって構成し、必要に応じて本会会務の円滑な運営に必要な事項を審議する。

- 2 分会長会は、構成員の過半数の出席をもって成立する。
- 3 分会長が出席出来ない場合は、代理の出席を認める。
- 4 分会長会の招集に当っては、期日の2週間前までに会議の議案書を分会長に通知しなければならない。

(執行役員会)

第20条 執行役員会は会長、副会長、幹事長をもって構成し、本会通常業務の範囲内に限りこれを決定し、執行することができる。

- 2 執行役員会は、構成員の3分の2以上の出席をもって成立する。

(会議の議決)

第21条 会議の議決は、当日の議決権者の過半数をもって決し、可否同数のときは議長の決するところによる。

(議事録)

第22条 全ての会議は、議事録を作成し閲覧が可能な状態で保存しなければならない。

2 議事録に関する規程は、別に定める。

## 第6章 委員会

(委員会)

第23条 会長は、本会事業の効率的運営を図るために会長の諮問機関として、幹事会の議を経て委員会を置くことができる。

2 委員会の委員は、幹事若干名をもって構成し会長が委嘱する。

3 委員会の運営等は別に定める。

## 第7章 会計

(会費)

第24条 本会の経費は、次の収入をもってこれにあてる。

(1) 会費

(2) 寄付金

(3) その他

2 納入金は返却しない。

(財産の管理)

第25条 財産の管理は、別に定める。

(会計年度)

第26条 本会の会計年度は、毎年4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。

## 第8章 事務局

(事務局)

第27条 本会の事務を遂行するため、事務局を置く。

2 事務局には幹事長を置く。幹事長は、会員の中から事務長を任命することができる。

また、必要に応じて事務員を置くことができる。

3 事務局の運営については、別に定める。

(備付け帳簿及び書類)

第28条 事務局には、別に定める帳簿及び書類を備えておかなければならない。

## 第9章 賞罰

(表彰)

第29条 本会の目的達成に功労が認められた場合は、個人及び団体を表彰することができる。

2 表彰に関する事項は、別に定める。

(除名)

第30条 会員が次の各号の何れかに該当するときは、総会の議を経て、別に定める規程に基づき除名することができる。

(1) 日本大学の名誉を傷つけ、又は校友としての品位を害する言動があったとき。

(2) 故意又は重大な過失によって、日本大学及び本会に損害を与えたとき。

## 第10章 雑則

(会則の改正)

第31条 本会則の改正は、幹事会並びに総会の議を経なければならない。

2 その決定にあたっては、各議において出席者の3分の2以上の賛成を必要とする。

(規程・要領等の制定)

第32条 本会則に必要な規程は幹事会の議、また、要領等は執行役員会の議を経て会長がこれを定める。

附 則

1 本会則は、昭和49年6月22日から施行する。

2 本会則は、平成7年7月8日に一部改正する。

3 (1) 本会則は、平成8年7月13日に一部改正する。

(2) 本会の名称は、農獣医学部校友会と生物資源科学部校友会を併記する。

4 (1) 本会則は、平成14年7月13日に一部改正する。

(2) 本会の名称は、日本大学生物資源科学部校友会とする。

5 本会則は、平成16年7月10日に一部改正する。

6 本会則は、平成17年7月9日に一部改正する。

7 本会則は、平成18年7月8日に一部改正する。

8 本会則は、平成20年7月12日に一部改正する。

9 本会則は、平成23年7月9日に一部改正する。

10 本会則は、平成26年2月8日に一部改正する。

11 本会則は、平成26年7月12日に一部改正する。

12 本会則は、平成28年7月9日に一部改正する。

13 本会則は、平成29年7月8日に一部改正する。

14 本会則は、平成30年7月14日に一部改正する。

15 (1) 本会則は、令和元年7月13日に一部改正する。

(2) 本会則で記載する「正会員」、「特別会員」、「準会員」及び「推薦会員」は、生物資源科学部校友会の会員資格を有する会員である。日本大学校友会本部の「会員資格」を記載する場合は注釈を付けて記載する。

16 本会則は、令和3年3月31日に一部改正する。

## 日本大学生物資源科学部校友会 役員及び会報編集委員会名簿

(令和4年4月1日現在)  
学部校友会事務局(敬称略)

**名誉会長**

役職	学科	分会名	氏名
学部長	獣医	角笛会	丸山 総一

**幹事**

(学科・役職・卒業年次順)

役職	学科	分会名	氏名
幹事長	森林	あすなろ会	阿部 和時
幹事	生農	富嶽会	長島 武志
〃	〃	〃	佐々木 透
〃	〃	〃	大澤 啓志
〃	生化	紫友会	高橋 善人
〃	〃	〃	藤岡 智子
〃	〃	〃	荻原 淳
〃	獣医	角笛会	鳥海 弘
〃	〃	〃	井上 亮一
〃	〃	〃	渋谷 久
〃	動物	満喜葉会	小杉 幸彦
〃	〃	〃	山本 捷
〃	〃	〃	園田 豊
〃	食ビ	いもづる会	横川 屹
〃	〃	〃	藤井 正気
〃	〃	〃	高橋 巖
〃	森林	あすなろ会	東郷 聖史
〃	〃	〃	渡辺 隆之
〃	〃	〃	小坂 泉
〃	海洋	桜水会	原 博隆
〃	〃	〃	田中 英臣
〃	〃	〃	今川 壮浩
〃	環工	工学会	酒川 和男
〃	〃	〃	工藤 謙一
〃	〃	〃	笹田 勝寛
〃	食生	F T 会	関村 具由
〃	〃	〃	廣川 隆一
〃	〃	〃	陶 慧
〃	国際	拓友会	北原 幸典
〃	〃	〃	山下 哲平
〃	〃	〃	倉内 伸幸
〃	応生	〃	近藤 明宏
〃	〃	〃	土屋 徳司
〃	〃	〃	明石 智義
〃	くらし	〃	安齋 寛
〃	〃	〃	光澤 浩
〃	〃	〃	新町 文絵

**分会長**

(学科順)

役職	学科	分会名	氏名
分会長	生農	富嶽会	長島 武志
〃	生化	紫友会	高橋 善人
〃	獣医	角笛会	鳥海 弘
〃	動物	満喜葉会	小杉 幸彦
〃	食ビ	いもづる会	横川 屹
〃	森林	あすなろ会	東郷 聖史
〃	海洋	桜水会	原 博隆
〃	環工	工学会	酒川 和男
〃	食生	F T 会	関村 具由
〃	国際	拓友会	北原 幸典
〃	応生	応用生物科学部校友会	近藤 明宏
〃	くらし	くらしの生物科学部校友会	安齋 寛

**執行役員**

(学科順)

役職	学科	分会名	氏名
会長	獣医	角笛会	鳥海 弘
副会長	生農	富嶽会	長島 武志
〃	生化	紫友会	高橋 善人
〃	動物	満喜葉会	小杉 幸彦
〃	食ビ	いもづる会	横川 屹
幹事長	森林	あすなろ会	阿部 和時

**監査役**

(学科順)

役職	学科	分会名	氏名
監査役	生農	富嶽会	野村 和成
〃	〃	〃	立石 亮
〃	生化	紫友会	長谷川 功

**会報編集委員**

(学科順)

役職	学科	分会名	氏名
編集委員	生農	富嶽会	畠山 吉則
〃	生化	紫友会	荻原 淳
〃	獣医	角笛会	大野 真美子
〃	動物	満喜葉会	園田 豊
〃	食ビ	いもづる会	佐藤 奨平
〃	森林	あすなろ会	園原 和夏
〃	海洋	桜水会	福島 英登
〃	環工	工学会	梅田 大樹
〃	食生	F T 会	成澤 直規
〃	国際	拓友会	山下 哲平
〃	応生	応用生物科学部校友会	明石 智義
〃	くらし	くらしの生物科学部校友会	山下 正道

## 学部校友会からのお知らせ

### 1 卒業生の動向について

平成24年度から10ヶ年の卒業生数及び延べ卒業生数は次表のとおりです。

(単位：人)

区 分	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度
卒業生数	1,865	1,984	1,824	1,848	1,675	1,704	1,799	1,670	1,566	1,557
内 訳	学部生	1,603	1,699	1,600	1,601	1,603	1,614	1,715	1,581	1,480
	短大生	150	153	144	149	—	—	—	—	—
	大学院生	112	132	80	98	72	90	84	89	75
延べ卒業生数	91,290	93,274	95,098	96,946	98,621	100,325	102,124	103,794	105,360	106,917

(説明) 短期大学部は平成27年度をもって廃止されました。

### 2 令和4年度の藤桜祭の開催について

令和4年度の藤桜祭は、コロナ禍の中で昨年、一昨年と中止しておりましたが、10月29日(土)及び30日(日)の両日学内で開催されます。

### 3 ホームカミングデーの開催について

ホームカミングデーの開催は、藤桜祭の初日に開催する予定でしたが、開催の規模、内容あるいは入場者等が未定であること、また、準備期間もないことから令和4年度は中止としました。

### 4 令和5年度の通常総会及び懇親会の開催について

#### (1) 通常総会

ア 日 時：令和5年7月8日(土) 午後2時から

イ 場 所：日本大学生物資源科学部 NUホールA

#### (2) 懇親会

ア 日 時：同日 午後4時から

イ 場 所：日本大学生物資源科学部 食堂棟3階

なお、時間、場所等は変更することがありますので、予めご了承ください。

### 5 奨学金制度について

学部校友会では独自の奨学金制度を設けており、生物資源科学部の奨学金制度とタイアップして生活が困窮している在学生の方々を対象に奨学金を支給しております。

この学部校友会奨学金は、毎年7,000千円を予算計上しており、12月に十数名から二十名の準会員を支援しております。

### ◎ お問い合わせ等について

生物資源科学部には会員各位が卒業されました各学科毎に校友会が組織されております。

本会報は、各学科校友会の会報編集委員及び都道府県支部の会報執筆担当者の方々のご協力を得て学部校友会の広報委員会が作成しております。

したがいまして、掲載記事の内容に関するお問い合わせ、住所変更の届け出、あるいは今後の会報発送不要等のご連絡は、直接各学科校友会、若しくは都道府県支部の記事掲載ページに記載してあります連絡先までお願いします。

発行所

日本大学生物資源科学部 校友会 〒252-0880 神奈川県藤沢市亀井野1866

印刷所：(株)デイ・エム・ピー 〒162-0041 東京都新宿区早稲田鶴巻町561